

## 第56回 鴨叡会・生命分子化学科セミナー

日時：1月28日（火）16時～17時30分

場所：京都府立大学6号館63講義室

講演者：森川 耿右 先生（京都大学 生命科学研究科）

演題名：「フランス・クリック：DNAモデル発見の  
経緯と意識研究への転回」

## 概要

フランシス・クリックはジェームズ・ワトソンと共同して、1953年に有名なDNA二重らせんモデルを報告した。これが分子生物学発展の重要な契機となったことは周知の事実である。ワトソンとは対照的に、クリックはその後も遺伝の分子機構研究に携わり、数々の重要な業績を残した。そして、情報の流れが「DNA→mRNA→タンパク質」の順に伝達されるとのセントラル・ドグマの概念を提唱した。1977年に米国のソーク研究所に移籍し、数年後、クリストフ・コッホと共に、脳内の意識現象を生理学的に説明する要素還元主義的研究を開始した。この卓越した研究者が、「何故脳-意識研究に向けてテーマを変更したのか」その理由について、私的な推測を述べて見たい。加えて、意識は哲学の分野においても重要なテーマであるが、その観点から私なりの解釈を語ってみたい。